

女子体操競技のゆか運動における音楽性の採点規則に基づいた 演技構成の一考察

A discussion of gymnastics routines based on rules for scoring the musicality of floor exercises in women's gymnastics

尾 西 奈 美

Nami ONISHI

I. は じ め に

近年、女子体操競技は演技全体を通して、更に芸術性と多様性に富んだ演技が求められるようになった。国際体操連盟 (FIG) が制定する採点規則に基づいて、技の難易度・美しさ・雄大さ・安定性・熟練性などの観点から、より高度な技の技術と芸術性が強く求められている。むやみに高何度の技を実施しても、体操競技の本質である美しさや雄大さが伴わない演技に対して、実施減点が課せられることになり、その結果、高得点を獲得することは出来ない。選手は自身の能力に合わせ、正確に、より美しく、より雄大に実施することが求められている。

女子体操競技のゆか運動においては様々な要素が必要不可欠で、特に芸術性での評価は高く求められており、適切に組み立てられた構成を、選手の演技力によって芸術的に表現することが要求されている。

通常、採点規則はオリンピックの翌年に4年サイクルで改訂が行われており、このサイクルで施行された採点規則にはどのような変化が生じたのか、今後、女子体操競技に求められるものは何か

など、これまで男子採点規則に関する研究は数多く行われてはいるものの、女子についての研究は少ない。

本研究では、ゆか運動の採点規則の変遷に伴い、芸術性が追求される現在において、採点規則に適応した音楽のテーマや特徴と調和した身体の動きと感情表現を融合することを目的とし、個々に合った独創的でバランスが取れた構成を考案し、結果に繋げる。女子体操競技の「華」とも言われているゆか運動の芸術性と演技の振り付けに焦点を当て、競技力向上に役立てることを目的とする。

II. 研 究 方 法

対象者は、K大学女子体操競技部の全日本学生選手権団体選手4名。選手の性格特徴・個性・スタイルを把握し、個々に合った音楽テーマを選曲し、ゆか運動の演技を細かく構成していく。完成までの過程と音楽との調和を重視することで、点数にどのように反映してくるか分析する。対象の大会は8月に開催された第69回全日本学生体操競技選手権大会とする。

Ⅲ. 芸術的な演技

ゆか運動の表現は、適切に組み立てられた演技を、選手の演技力によって芸術的な演技に変えて演じること、すなわち選手は流れるように動く振り付け、芸術性、表情の豊かさ、音楽性及び完璧な技術を演技として示さなければならない。主な目的は、音楽テーマや特徴と調和した身体の動きと感情表現を融合することにより、独創的でバランスが取れた構成を創造し、表現することであると考える。ゆか運動の演技は、選手の豊富な表現手段と同様に技と動きを取り入れた振り付けを基本とする。さらにフロアーの空間と与えられた時間の中で、選択した音楽との調和を保ちながら、体操的、芸術的な要素を融合させた構成にしなければならない。振り付けはスピードと強さに変化をつけながらも、一つの動きから次の動きへ流れるように展開されることが望ましい。また、技と動きの構成における独創性とは、新たな発想、形式、演出、オリジナリティを意味し、それによって単調な振り付けは避けられる。

また、表現とは、体操競技に必要な不可欠な表現、一般的に顔の表情や身体の動きによって表わされる姿勢及び感情の変化をいう。これは非常に難しく、複雑な動きを伴った演技の中でも表情をコントロールしながら自分自身をどのように表現し、審判と観客を一体となれるか、ということも含まれる。それは演技全体を通して、役やキャラクターを演じる能力でもある。技術の完成度に加えて、芸術的な調和及び女性の優美さも考慮しなければならない。選手が何を実施するかだけでなく、どのように実施するかが大きなポイントとなる。

Ⅳ. ゆか運動に関する採点方針

1. 採点の基本方針

採点の基本方針について、演技の内容や組立に関する現在の考え方は、ダンス系やアクロバット系の振り付けが熟知され、それが重要とされる芸

術的な演技を奨励しなければならない。体操競技は技の難しさと美しさを競うスポーツである。女子体操界では技術の革新や開発に重点を置いた時期もあったが、現在は熟練された芸術性と多様性に富んだ演技を高く評価する方針を打ち出している。

2009年版(2009年～2012年)の採点方法と比較すると2013年版は芸術的な演技が求められ、構成と振り付け・表現・特に音楽性において、動きと音楽の間には直接的な関係がなければならない。音楽は選手個人に適したもので全体の芸術性や演技の完成度を高めるものが要求されている。また、実施点は、演技の実施・組み合わせおよび芸術的表現が完璧であれば10.00を獲得できる。実施と芸術性における過失の減点は合計され、Eスコアを決定するために10.00から減点される。

2. ゆか運動と音楽について

女子のゆか運動は、90秒以内の演技で、アクロバット、ダンス系、動きを組み合わせた構成で構成されている。音楽伴奏はオーケストラ、ピアノ、またその他の楽器によって録音されたものでなければならない。また、歌詞が入っていなければ人の声を楽器同様として使用してもよい、とされている。演技の採点は、選手の最初の演技から始まる。技に対する要求は5つ、ダンス系に対する要求は3つ以上、難度の高い技から合計8つの要素が演技の価値点となる。

ゆか運動の音楽は、突然途切れることなく完成されたもので、演技全体の構成や実施に一体感を持たせるものが要求される。それは流れるものであり、開始と終了が明確でなければならない。さらに選択された音楽は、選手独自の特徴や個性を際立たせ、構成のアイデアやテーマを導くべきものである。選手はその音楽をよく理解し、リズム・スピード・流れや強弱や感情までも表現しなければならない。

女子の芸術性を競うゆかの演技における採点の対象は、演技全体の構成・複合的な運動経過・音

楽と振り付けの関連性・演技全体の調和と表出する力及び表現力が十分に考慮されているかといった基準で評価される。従って選手は自身の能力に合わせ、より美しく、より雄大に、より芸術的に表現することが求められる。

また、表1と表2を比較すると、芸術的な演技に加え音楽性の減点項目が多く、音楽と編集、例えばオープニング、エンディング、またはアクセントがないといった音楽に構成がないものに対しては0.1の減点、選曲した音楽に対して不適当な動きの選択0.1～0.3の減点、音楽性の減点として音楽の拍子、リズム、テンポに合わせることが出来ない0.1～0.3の減点、音楽がバックミュージックである（演技の始めと終わりのみ音楽に関連している場合のこと）0.5の減点、演技の終了で音楽と動きが一致しない0.1の減点が課せられる。

以上のことから音楽の選曲、そして音楽のテーマと振り付けは、演技の評価に大きく影響していることが考えられる。

3. 演技の構成・振り付けの実施

音楽の選曲にあたり、実際に選手の演技内容・構成を把握し、なおかつ選手の特徴を捉えた。1人1人個性に合った音楽の選曲を実施した。ゆか運動の選曲は選手の個性や雰囲気・技の内容・表現とあらゆる内容を踏まえ選曲しなければならない。選手はより自分を表現できる音楽テーマを考えなければならない。

実際に行った選手の特徴と選曲 Dスコア（構成点）Eスコア（実施点）

① A 選手→手足が長く柔軟性が高い選手。しなやかな表現を実施した。

しなやかさを最大限に引き出すクラシックのようなしなやかな曲を選曲。バレエ的要素をふんだんに取り入れた動きを入れ、女性らしく、指先・足先まで美しく演じることに重点を置いた

Dスコア4.6 Eスコア8.1

表1 2009年版 芸術性の減点（E審判団）

欠点	0.1	0.3	0.5
演技全体を通して以下のような内容で芸術的表現に欠ける			
・ 技と動きの構成が独創的ではなく、振り付けの創造性に欠ける	×	×	
・ 動きを通しての音楽テーマの表現力の欠如	×		
・ リズムの変化が不十分	×		
音楽			
・ 音楽と動きの関連性が乏しい	×	×	
・ 音楽がバックミュージックでしかない			×
不適当なジェスチャー、または音楽、動きが模範的で調和がない	×		

表2 2013年版 芸術性の減点 (E 審判団)

欠点	0.1	0.3	0.5
芸術的な演技			
ー演技全体を通して芸術性に欠ける			
・表現力	×		
・自信	×		
・個性	×		
ー演技を通して役やキャラクターを演じることができない	×		
ー演技全体を通して技と動きの一連のつながりが無い	×		
構成と振り付けと音楽			
ー音楽と編集	×		
・音楽に構成がない			
ー音楽に不適切な動きを選択する	×	×	
ー動きと変化の創造性や多様性に欠ける	×		
ー床面全体の不十分な使用			
・直線、曲線の使用、および方向転換	×		
・床面の接する（胴体や腿や頭）動きがない	×		
ー360度以上の片足上のターンがない		×	
ー1回より多いリープ/ジャンプ/ホップの正面支持臥	×		
ー音楽性			
・音楽の拍子、リズムおよびテンポの合わせることができない	×	×	
・バックミュージック			×
ー演技の終了で音楽と動きが一致しない	×		

- ② B 選手→脚力が強く、ダイナミックなアクロバットが実施できる。パワフルな選手

リズミカル、ポップな選曲をし、弾けるようなアクロバットと力強い動きやポーズ、もしくはチャームな動きを取り入れて、観客が手拍子で一体化するような、誰もが楽しくなるような演技をアピールすることに重点を置いた

Dスコア5.0 Eスコア8.1

- ③ C 選手→古風な雰囲気があり、長身の選手。手の表現に目がいくような繊細かつ力強い演技の実施

日本的な動きを導入、日本伝統の和太鼓と三味線を中心に演奏された曲を選曲。力強さとインパクトのある動きで顔の表情までも演じきることに重点を置いた

Dスコア5.2 Eスコア8.55

- ④ D 選手→タンゴ調を使用、大人っぽい表現、曲に合わせて動きと目線までも意識した演技

女性らしく情熱的に、リズムに合わせてロマンティックな、時としてメランコリックな表現を演じることに重点を置いた

Dスコア5.5 Eスコア8.65

V. 結 果

今回、8月の全日本学生体操競技選手権大会のゆか運動の実施に焦点を置き、4月より団体選手メンバーのゆか運動の音楽テーマ、テーマに合った表現を実施した。特に動きの部分においては時間を費やし、表現できるよう練習を積み重ねた。

図1はH.25年～27年の全日本学生体操競技選手権大会団体種目別得点である。ゆかにおいて平成25年～26年は表現力と体操系の部分を強化し1.65ポイントアップ、平成26年～27年は本研究で取り組んだ音楽と動きの融合を強化し1.55ポイントアップした。ゆかの得点が少しずつ上昇して

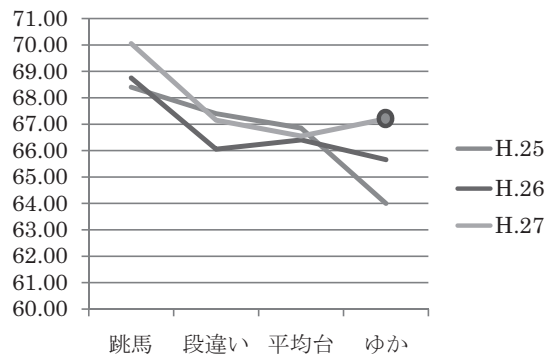


図1 全日本学生体操競技選手権大会団体得点

いる結果に繋がった。しかし、他の種目と比較してみるとゆかにおいては多様性が求められており、課題は多くある。技の習得と同等に、立ち姿勢を含めた美しい姿勢と表現力の練習に時間を費やす必要があると考える。今後は更に体操競技本来の技の難易度・美しさ・芸術性全てにおいて評価されるよう取り組んでいきたい。

VI. ま と め

体操競技の団体戦でのゆかのチーム得点は、非常に大きなウエイトを占めていると考える。コーチはもちろんのこと、選手自身もより自身の自己分析をし、どんな音楽が合っているのか、音楽テーマに合った動きを表現できるように振り付けの部分においても、演技の構成等を組み立てていくことは重要な役割である。

今後、より一層音楽そのものがストーリー性を感じさせるものの選曲が望ましく、ストーリーに合った表現を実施できることが一つの作品として創り上げることでできる大きな要因だと考える。

本研究は、平成27年度国土館大学体育学部附属体育研究所研究助成金を受けて実施した。記して感謝の意を表したい。

参考文献

- 1) 財団法人日本体操協会 (2006) : 採点規則女子2006

- 年版. あかつき印刷株式会社, 東京
- 2) 財団法人日本体操協会 (2007): 採点規則女子2007年版. 広研印刷株式会社, 東京
- 3) 財団法人日本体操協会 (2009): 採点規則女子2009年版. 日本印刷株式会社, 東京
- 4) 財団法人日本体操協会 (2013): 採点規則女子2013年版. 日本印刷株式会社, 東京
- 5) 加納實, 木下紘一郎, 原田睦巳 (2009): 採点規則の改訂に伴う平行棒の演技構成に関する一考察, 順天堂大学スポーツ健康科学研究, 13: 1-26.
- 6) 藤本俊, 清水紀人, 岡村輝一, 岡崎秀人, 新井重信, 齊藤瑞穂, 日向小百合 (2003): 女子体操競技における採点規則と演技構成の検討—世界と日本の平均台の動向について—, 日本体育学会第54回大会号549.
- 7) マヤ・レックス著 エレメンタリーダンス (2000) —基礎から表現の動きの指導—
- 8) ジョーン・ローソン著 バレエのサイエンス (1995)
- 9) ジョーン・ローソン著 バレエ創作ハンドブック (1995) —振付と表現の技法—
- 10) 宮操子著 動の美 (1998)